

今だからこうして話をする事が出来ますが、膝の痛みや「明日になると足が動かなくなっているのでは？」という不安で眠れない日が続き、毎朝、重たい身体を引きずり、40分程通勤電車に揺られ、不安な気持ちのまま国会前へ通った日が何日もありました。人生で初めて鎮痛剤を飲みながら走るということも経験しました。

ギリギリの所で、私を支えていたのは、突入宣言文で「この行動の中止は、自分が倒れるか、政府が解決の決断をする以外ない」と言った言葉の重みと「自分はまだ十分動いているのではないか」という自分自身への奮起、そして、苦しいときに必ず駆けつけ、共に行動し、声援を送って頂いた全国の共闘の方々のおかげです。

共闘事務局の方々には様々な任務のある中、当番を決めて毎日、受付、時には伴走もして頂きました。私の北見闘争団では、政府に解決の決断を迫る、北見闘争団全体の取り組みとして、順番を決め自費で団員を派遣してくれました。

休日を返上して駆けつけて頂いた方、勤務前、夜勤明けに駆けつけて頂いた方、地方から夜行バスで上京し、その日の新幹線で帰られた方、インターネットの掲示板、新聞、人づてに聞いて駆けつけて下さる等、初めてお会いする方々にも、共に行動をして頂きました。この行動期間中、駆けつけて頂いた方々によくこのようなことを言いました。「自分の発案ながら、支援の方々にとってはこんなひどい企画はないと思う。自費で国会前に駆けつけ、マラソンを走らされ、汗でグチャグチャになり、疲労し、おまけにエントリー料金（カンパ）も支払わなければならない」と…。

しかし、駆けつけて頂いた方々は「自分の思いできているのだから、そんなことは当然です」と笑いながら言って下さいました。



皆さんの笑顔に元気を頂きました

この行動期間中に政府からの答えはもらえませんでした。行動の成果としては、国会議員、秘書の方々、議員会館、国会周辺で働いているの方々、国会周辺を警備している警察関係の方々、陳情に訪れたの方々、一般の通行者、国会見学者、議員会館前で集会を開催した各団体の方々には、広くアピールできたこと。そして、本当に自分の闘いとして共に闘って下さる方々が全国に沢山いるということを確認できましたし、私たち当事者が、何を求め、どうしたいのかをわかりやすく行動に表すことで、支援の方々がいっしょにそれに応じて頂けることを感じる事が出来ました。

また、この行動に参加した後「この企画頂きました！」とゼッケンに議会傍聴への呼びかけと、その時々政治的なアピールを書き、議会周辺を走ることにした、山下茨木市議会議員。初めてお会いした京都の藤井さんは、24日を「勝手に国労応援ラン」と決めて、私が送ったゼッケンを付けて走ることを決意したと、自身のブログ「パオパオだより」に載せて頂いています。さらに、この行動で出会った方々同士の交流の輪が広がるなど、一見、解決させることにはつながらないように思いますが、国鉄闘争からあらゆる諸課題への闘いへつながることで、最終的に相手に対し圧力を与えることになるかと確信します。

最後に、今後の課題として行動を通じて感じたことですが、期間中、国会周辺でカメラを持った多くのマスコミの方々に出会いましたが、残念ながら初日のTBSの方に声